

ミケル・バルセロ展

国立国際美術館(大阪・中之島) 2021.03.20~05.30 長崎県美術館、
三重県立美術館、東京オペラシティ・アートギャラリーを巡回

「ミケル・バルセロ」(1957~)は、1982年に国際的なデビューを果たして以来華々しい成果を見せ続け、スペイン現代美術界の巨匠として国内外で多彩かつ精力的に制作活動をしている、現代アートシーンを展開する美術家である。

〈本展の見どころ〉

1. 現代のスペインを代表する美術家「ミケル・バルセロ」の日本では最初となる大規模な個展で、日本初公開作品も多数展示。
2. 初期の作品から最新作まで、半世紀近くにわたる創作活動を紹介。
3. 絵画、大きなカンヴァス作品、自在な形を作り出す陶の作品、ブロンズ彫刻、高度な技術と独創的な技法によるブリーチ(濁白)絵画、世界各地の風土を捉えた瑞々しいスケッチや水彩画やセラミック作品など「約100点」の作品により画伯が切り開いた芸術世界が鑑賞可能。



《とどめの一突き》1990年



《下は熱い》2019年

この2作品はミクストメディア/カンヴァス



《カピロテを被る雄山羊》ブロンズ 2006年

実にユニークな主題に基づくブロンズ像である。

これらの多岐にわたる表現媒体の作品から、「バルセロ」が切り拓いてきた豊かな多様性に特徴づけられ、広大な芸術の世界と、懐の深さを十分に堪能することができるであろう。